

ツリガチ!

★イージーなアジ釣りを、あえてチャレンジングなものに——。バチコンアジングを楽しむ釣り人たちは、変わり者なのだろうか? いや、そうじゃない。どんなことにも全力で挑む、熱い心の持ち主なのだ。広大な東京湾に無数に生息するアジに、小さな小さなワームで勝負を仕掛ける。台風のせい、雷雨のせい、徹底して口を使わないアジ。攻略の糸口を探せ。負けるな。ひるむな。バチコンでガチになれ!

東京湾奥のバチコンアジング

文◎高橋 剛



当日のライトアジ船で見つけた東京湾のバチコンで〇〇しがちマシーン

バイトがあるとワームがスレがち



▲アタリかどうか分からない……。そんなときワームがズレていたらアジが食ってきた証拠だ
▶アジがワームをくわえて引っ張るとこのような形になる



▲アジがワームを吸い込んで吐き出すとこのような形になる

アタリがないとエサを使いがち

▶あまりにもアタリがなさすぎて、つい生エサを使ってアジがいるのか確認する



トドラゲ調整を忘れがち

◀「SLJのときのままのドラゲ設定だった」というタカハシコー。回収時に少しラインが出るくらいに緩めにドラゲを調整する



ワームが散らかりがち

▲色なのか、サイズなのか、迷えば迷うほど使うルアーが増え、気が付くと目の前にワームが散乱している

◀イソメマンこと鹿島さんもこっそりアオイソメを使おうとしていた

取り込みでプラプラしがち

▲勢いをつけて抜き上げるとアジがプラプラしてなかなかつかめない



ワームが散らかりがち

▲色なのか、サイズなのか、迷えば迷うほど使うルアーが増え、気が付くと目の前にワームが散乱している

◀イソメマンこと鹿島さんもこっそりアオイソメを使おうとしていた

取り込みでプラプラしがち

▲勢いをつけて抜き上げるとアジがプラプラしてなかなかつかめない

編集部員からの情報があったからだ。

「今まで東京湾でバチコンをしてきた感覚では、コマセ釣りの10分の1ぐらいの数が釣れる、という感覚なんだ。コマセ釣りで50尾釣れているならバチコンで5尾、コマセ釣りで100尾ならバチコンで10尾、という感じかな。」

数だけ見ると少なく思えるかもしれないけど、積極的に狙って釣るルアー釣りなら、結構な釣果。1尾1尾に対して「釣ったぜー」という達成感を味わえるから、かなり充実した釣りができるんだよ」とヨッシー。

「ここは、釣りという趣味に何を求めるかによって分かれるところだろう。数釣りも楽しみ方のひとつだし、ルアーのように「いかに釣るか」というプロセスにこだわるのもアリだ。もちろん、両方だって構わない。」

ヨッシーの表情がやや曇ったのは、近田編集部員の情報より正確にヒヤリングしたときだった。「台風でどうなるかと思っただけで、昨日の東京湾ライトアジ半日船は20〜30尾程度とまらずまず釣れていたようである」というようなことを、近田編集部員は言ったそうである。

ヨッシーの「バチコンで釣れる数」コマセ釣りの10分の1」説にあてはめれば、2、3尾ということになる。

「厳しい戦いになりそうだが……」というヨッシーの思いは、しかし、決して不安などではなかった。「どうにかして絶対に釣ってやる!」と、完全にガチになったのである。

午前7時20分、ゆったりとしたペースで仁春丸は金沢漁港を離れ、10分少々で水深30メートル弱のポイントに到着すると、釣り開始となった。

すぐにヨッシー、釣友の鹿島一郎さんにアタリがあった。初めてバチコンアジングに挑む板倉友基くんも、あやしいアタリのようなものを検知した。

「幸しいじゃん」と色めき立ったのは、ヨッシー以外だった。ヨッシーは、アタリがあっても釣れなかったことを問題視していたのである。

「ライトアジ船に同船している場合、最大のチャンスはポイントに到着しての1投目なんだ。まだコマセに着いていないアジが、真っ先に落ちてくるワームに興味を示し、食ってくるのがすごく多い。」

だからみんなにアタリがあったのはいいことだけど、だれも



▲当日のエサ釣りの方の釣果は一人20〜25尾だった

釣り上げられなかったということ、相当に食い渋ってるってことなんだよね……」

次にヨッシーが大きく合わせたのは、実に40分ほど経過してからだった、が、掛からない。かなり食いが浅いようだ。

最初のアタリから次のアタリまでの約40分間、ヨッシーはガチだった。

オモリが着底したら、チョンチョンと誘いのアクションを入れて、スツと止める。食わせの間を作っているのだ。これを繰り返しながら、ベタ底から3メートルぐらいまでの間をワームが泳ぐようにしてタナを探っていく。これがバチコンアジングの基本的な釣り方となる。

チョンチョン、の度合いを強めてみたり早めてみたり。あるいはチョンチョン、の動かし方

陸っぱりからワームでアジを釣ることは、皆さんご存じ、アジングという。では、船からワームでアジを釣ると?

船からだ、垂直方向——バーチカルに糸を垂らして、ワームをアジに接近させる——コンタクトすることになる。

つまり船からワームでアジを釣ることは、バーチカルコンタクト・アジング、略してバチコンアジングなのである。

本来の意味はともかくとして、誘いがバチッと決まるとコンタクトアタリが出るからバチコンではないか、と思えるほど、語感のキレのよさと実際に釣れたときの気持ちよさが共通している。

その一方で、誘いがバチッと決まらないときの難しさと言ったら、「……これが本当に船からのアジ釣りなのか……!」と、言葉を失うほどだ。

船におけるアジ釣りの方法論は、すっかり確立している。釣法も仕掛けも熟成しまくっており、極めて高い完成度を誇る。熟練した船長さんたちの的確なポイント選びと相まって、東京湾のライトアジ船はまずハズレがなく、安定確実実釣果の癒やし系釣り物として定着しているのだ。

コマセに寄って活性の上がっ

たアジなら、「仕掛けを落とせばだれでも釣れる」というラクシヨモードに突入することも珍しくない。だからこそベギナーにも人気なのだし、手練のベテランには数釣りのだいたい味を味わわせてくれる。いずれにしても、釣り人にとっても優しいのである。

だがバチコンアジングは、ひと筋縄ではいかない。東京湾では、ライトアジ船の船長に許可を得て同船するのが基本だが、ということばかり、ふんだんに降り注ぐコマセでラクにお食事できることを知っているアジに、わざわざワームで挑み、どうにかしてこの疑似餌を食わせなければならぬのである。

うまくいくときはうまくいくが、うまくいかないときはうまくいかない。禅問答のようなのだが、いかにも釣りっぽい行為がバチコンアジングなのである。

「バチコンで釣れる数」コマセ釣りの10分の1」説とは?」

関東の東の海上を台風が駆け抜けていった2日後。10月3日の早朝、東京湾奥金沢漁港は仁春丸の船宿に、ヨッシーこと吉岡進さんの姿があった。バチコンアジングに挑もうというので

ある。

出船前のヨッシーには、正直なところ、「挑む」というほどの強い覚悟はなかった。「台風一過の昨日は、まずまずアジが釣れていたようだ」という近田

ネガティブな使い方をされることもあるこの言葉、もともとは敬意や謝意を表すものだ。「わざわざお越しくださった」という具合に。

だから我われも胸を張ってわざわざバチコンアジングに興じることを選び、わざわざワームを食べてくださるアジを追い求めて、今日も東京湾に浮かぶのである。



▲ライトなタックルとシンプルな仕掛けでアジを狙う

東京湾のバチコンでは初めての深場だったけど、やっぱり大物がいるね。新しい可能性が見えたよ。



◎大アジを釣り上げて大満足のヨッシー

を大きくしてみたり、小さくしてみたり。止める時間を短くしてみたり、長くしてみたり。ハリスの長さを長くしてみたり、短くしてみたり……。

ありとあらゆるやり方で、アジに口を使わせようとするヨッシー。だが、この日の東京湾は何かがおかしかった。前々日の

沈黙を破りヨッシーが魅せた 値千金となる会心の1尾

台風の影響なのか、前夜に激しい雷雨に見舞われたせいなのか、アジがまったく反応しないのだ。「これは……」
ガチ攻めの姿勢を貫いていたヨッシーだったが、さすがに表情が曇った。コマセ釣りのお客さんたちも苦戦している様子なのだ……。

えない。

その後、流し変えの直後にヨッシーがバイトを連発するも、ハリ掛かりまでは至らない。もどかしい時間帯が続く。

ヨッシーは、1尾のアジを狙ってガチだった。東京湾に、星の数ほど生息しているはずのアジ。その中の、1尾。ヨッシーが精魂込めてアクションを伝えるワームを食ってくる、1尾。釣り開始から2時間と4分。

ヨッシーの竿がいきなり曲がった。重みのある引きだ。「ボトム付近でチョンチョンとワームを動かして止めたら、モゾツというアタリがあったから合わせさせたんだ。

すこい引きだね。ゴンゴンッというアジっぽさがない。グリーン、グリーンと強く長く引く感じ



▲ギョングューンと走り回るアジをたくみなロッド操作でいなすヨッシー

ツリガチ取材陣がようやくアジの顔を見たときには、釣り開始から1時間40分が経過していた。東京湾ライトアジ船としては異例なまでのシブさである。

「最初は何ント、アジじゃないかと思っちゃったよ。引きが重おもしろかったのは、もしかしたらハリスが魚に絡んだのかもしれない。途中からゴンゴンッというアジ特有の引きが出たから「コレはガチでキタぞー」と思ってた。

それにしてもデカイね。水深30メートルは東京湾のバチコンでは初めての深場だったけど、やっぱり大物がいるね。新しい



▲アオイソメを使ってアジを釣っていたタカハシゴ

「おっ、おっ……」
ヒザを入れて、魚の引きをいなすヨッシー。口切れするな、上がってきてくれ……。

総員の祈りが通じた。ついに仁春丸に取り込まれたのは、なんと36センチもの堂々たるメガアジだった。

「最初は何ント、アジじゃないかと思っちゃったよ。引きが重おもしろかったのは、もしかしたらハリスが魚に絡んだのかもしれない。途中からゴンゴンッというアジ特有の引きが出たから「コレはガチでキタぞー」と思ってた。

それにしてもデカイね。水深30メートルは東京湾のバチコンでは初めての深場だったけど、やっぱり大物がいるね。新しい

ただ浮かせてのカーブフォールだ」
同じアクションで2度のアタリを出したのは、この日で最初のことだった。みんながタカハシゴにならった。

そして……。
突然のように、アジの花が咲いた。鹿島さんが、板倉くんが、そしてタカハシゴも、ワームでアジを釣ったのだ。

連続してバタバタと釣れるアジ。同じ釣法で釣れるアジ。誘いがバチッと決まって、コンツとアタリが出る。これをバチコンだ！

「それじゃ揚がりましょう」と船長のアナウンスが響いた。「アジ、怖え」と板倉くんは放心状態になった。「バチコンアジング、最高です」と鹿島さんは言った。

全員が、1尾。クーラーは確かに軽かったが、我われの心も軽く、笑いが止まらなかった。「これがバチコンアジングのおもしろさ、なんだよね」とヨッシーは満足そうだった。

「1尾を狙って真剣になる。アジとのガチンコ勝負なんだよ」



▲ヒットパターンを見付けて情報を共有する



◎沖揚がり近くにトリプルヒットを達成するバチコン組。左からタカハシゴ、鹿島一郎さん、板倉友基くん



これがバチコンアジングのおもしろさ、なんだよね。1尾を狙って真剣になる。アジとのガチンコ勝負なんだよ。



▲アタリが少なくても最後までガチだったヨッシー

「分かった！ それにしてもうれしい！」
「アタリが少なくても最後までガチだったヨッシー」
20〜30センチ

可能性が見えたよ。いや、それにしてもうれしい！ 厳しいなかでの価値ある1尾とはまさにこのことだよ。釣れない時間が長かったけど、心が折れることはなかった。絶対に釣れると信じてたから(笑)。ストック量がとにかく豊富な東京湾アジの強みだよ。全員が自分の釣果のように、ヨッシーの釣った1尾のアジを誇りに思った。そして、自分もどうにか釣ろうと、それまで以上に頑張った。だが、東京湾は応えてくれなかった。

「アタリが少なくても最後までガチだったヨッシー」
20〜30センチ